

# 仙台市「MCR2030レジリエンス・ハブ」に国内初認定

仙台市は10月17日、国連防災機関（UNDRR）から「MCR2030レジリエンス・ハブ」に認定されたと発表した。認定は世界で35都市目、国内では初となる。「レジリエンス・ハブ」は防災・減災の実績を有した上、他都市に知見を共有し、支援する極めて重要な役割を担うもの。仙台市が掲げる防災環境都市づくりや第3回国連防災世界会議（2015年仙台市で開催）で採択された2030年までの国際的な行動指針「仙台防災枠組」を推進する取り組みなどが高く評価された。

東日本大震災からの復興、教訓を未来へ。今回の認定を機に、あらためて仙台市が目指す「防災環境都市・仙台」への取り組みをまとめた（写真・図などの資料提供は仙台市）。  
※MCRは「メイキング シティーズレジリエント（都市強靱化）」の頭文字。2030年までに安全で強靱性の高い都市への成長を促すUNDRRのプロジェクトで、2021年にスタートし、世界1700超の都市が登録している。  
▶「MCR2030レジリエンス・ハブ」の認定証が授与されたアジア太平洋防災閣僚級会合への参加も情報発信の一環。写真は認定証を手にする郡和子市長（左から2人目）



ごあいさつ 仙台市長 郡 和子

このたび、仙台市は国連防災機関（UNDRR）から「MCR2030レジリエンス・ハブ」として国内で初めて認定を受けました。



「MCR 2030」は、世界の防災指針「仙台防災枠組」のゴールである2030年までに、世界の各都市が安全で強靱性の高い都市となることを目指す国際的なプロジェクトです。この中で、防災・減災や都市の強靱性を高める取り組みにおいて実績を持ち、他の都市に知見を共有し、支援する役割を担うのが「レジリエンス・ハブ」です。

本市では、市民や企業、学術機関の皆さまとともに震災復興や防災環境都市づくりに取り組んでまいりました。この経験や教訓は、東日本大震災から13年が経過した現在も国内外から高い関心を寄せていただいております。国際会議や海外からの視察の機会を捉えて世界に発信してきたことが、このたびの認定につながりました。

今後も市民の皆さまが暮らしやすさを実感でき、仙台市が国内外から選ばれる都市となるよう、防災環境都市づくりを進めるとともに、その取り組みを広く発信し、「レジリエンス・ハブ」として世界の防災・減災に貢献してまいります。

なく、継続的な防災学習・発信の場とするため、16年から毎年開催している。

来年3月には、11回目となる「仙台防災未来フォーラム2025」が仙台国際センターで行われる。今回は、「一人ひとりが主役」とともに創ろう防災の輪をテーマに東日本大震災からの復興・復興に加えて、環境問題や水害など様々なテーマから広い意味での「防災」について知る・考えるプログラムを予定している。

このほか、レジリエンス・ハブとして積極的に情報発信するため、海外・国内の会議での発表や国内外の防災関係者・企業などの視察受け入れにも積極的に取り組んでいる。



## 世界の防災文化への貢献・都市ブランドの確立 安全・安心で持続可能な都市づくり

仙台市が目指す「防災環境都市・仙台」は、大きく分けて▽インフラやエネルギー供給の防災性を高める「まちづくり」▽地域で防災を支える「ひとづくり」▽経験と教訓の伝承の3つを施策の柱に進められてきた。

### まちづくり

#### ハード・ソフトの両面で 防災・減災対策を推進

まちづくりの分野では、東日本大震災で被害を受けた下水処理施設の再生や住宅・マンションの耐震化向上のための支援など、さまざまな都市インフラにおけるハード・ソフト両面での防災・減災対策を進めてきた。また、上下水道や都市ガスといったライフラインの強靱化を

進めるとともに、省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの活用を促進しながら、防災と環境の両面から持続可能な社会づくりへの貢献を目指している。

中でも仙台市の下水の約7割を処理してきた南蒲生浄化センターは、最初沈殿池、最終沈殿池を2階層化、反応タンクを深槽式としてコンパクトにするとともに、津波高T.P.+10.4mにも対応するようかさ上げし、建屋に耐水扉を設置することで、東日本大震災クラスの津波に耐えうる施設とした。また、電源喪失時にも最低限の下水処理を行い放流できるルートを確認するとともに太陽光発電設備や小水力発電を設置。次の災害に備えてより良い状態にするという、「より良い復興（Build Back Better）」の考えが活かされている。

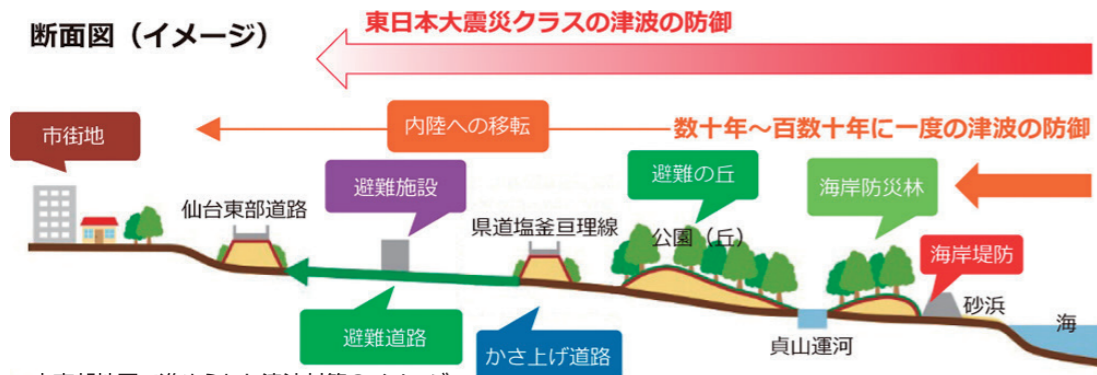
甚大な被害を受けた市東部地域では、より



▲多重防御のなめらかなかさ上げ道路



▲復旧後の南蒲生浄化センター。右側には太陽光パネルが見える



▲市東部地区で進められた津波対策のイメージ

強靱な地域づくりに向けて複数の施設で津波を防ぐ「多重防御」、津波から逃れる「避難」、住まいの「移転」を組み合わせることで、数百年に一度の規模の津波にも安全・安心を確保する対策が講じられた（左下図参照）。

津波に対する第一の備えとして、高さT.P.+7.2mの海岸堤防を若林区藤原から宮城野区蒲生までの約8.5kmにわたって整備（一部国土交通省が担当）。その後には堤防機能も併せ持つ全長10.2kmのかさ上げ道路が多重防御の要として作られた。

### ひとづくり

#### 自助、共助、公助が一体で

施設整備などのハード対策だけでは災害の被害を防ぐことはできない。そのため仙台市は「ひとづくり」に力を入れながら自らの手で自分や家族を守る「自助」、地域での支え合いによる「共助」と、行政による「公助」が一体となり協働で防災・減災を推進している。

主な取り組みを上げると、自主防災組織の活性化と市内全域での地域防災力の底上げを図るため、震災後の2012年度から仙台市独自の講習プログラムによる「仙台市地域防災リーダー（SBL）」の養成を開始。その数は、すでに1,000人以上に上り、引き続き新規育成やバックアップ講習会の開催のほか、SBLの認知度向上と女性や若い年齢層の取り込み、SBL相互の連携強化などに取り組んでいく。

また、大規模地震や津波などの災害から命を守るため、年間を通じて自助、共助、公助による訓練をバランスよく実施し、市民の総合力による防災の実現を目指すほか、災害時に適切な行動が取れる人を育てるため、震災後に

新たな防災教育の方針を策定し、「仙台版防災教育」に取り組んでいる。

### 経験と教訓の伝承 レジリエンス・ハブとして積極的に情報発信

震災の記憶を長くとどめ、経験や教訓を未来の防災へ活かすため、市民・地域団体と連携・協働したメモリアル施設の運営、映像や写真によるアーカイブの整備、仙台防災未来フォーラム開催などさまざまな取り組みを行っている。

代表的なメモリアル施設の一つとなる荒浜小学校校舎は震災遺構として整備され17年4月から一般に公開された。

校内内部では、破損した教室や被災直後の写真、当時の状況を振り返る映像などにより津波の脅威を伝えているほか、荒浜地区の歴史や小学校の思い出に関する資料も展示するなど、地域の記憶の継承にも努めている。

仙台防災未来フォーラムは、さまざまな発表や展示、体験型プログラムなどを通じて市民が防災を学び、日ごとの活動を発信できるイベント。15年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議で、多くの市民が国内外からの参加者に向けて復興や防災の取り組みを発信したが、こうした活動を一過性のものとするこ



▲仙台防災未来フォーラム

### 防災環境都市の中核拠点へ

#### 本庁舎建て替え（第1期）がスタート

仙台市では、現本庁舎の老朽化や庁舎の分散といった課題を解消するとともに、災害対応能力などの機能強化を図るため、市役所本庁舎の建て替えを進めている。高い耐震性能や複数の電源供給設備などを備えた「防災環境都市・仙台」の中核拠点としてだけでなく、市民が集う新たなランドマークを目指す。

新本庁舎は、「市民とともに、まちとともに新たな時代に向けてチャレンジする市庁舎」をコンセプトに、「市民に愛される低層部」「防災環境への取り組み」「あらたな都市のランドマーク」の3つの特徴を備える。

特に防災環境では、内装の一部の木質化や鉄骨とCLT木造を組み合わせた木造ハイブリッ

ト構造の採用などカーボンニュートラルに向けた取り組みを発信。免震+制震ハイブリッド構造により、将来発生し得る巨大地震に対しても業務を継続できる高い耐震性を確保する。また、自然換気計画など省エネに効果的な環境技術を随所に採用することで「ZEB Ready」の認証を取得。同様に取得した同規模の延床面積を有する政令指定都市庁舎と比較しトップレベルの環境性能を有するなど、杜の都・仙台にふさわしい庁舎を目指す。

施設概要は、S造一部SRC造およびRC造（免震構造）、一部木造ハイブリッド構造地下2階地上15階建てで、延べ床面積は65,996㎡。このうち、第1期として高層棟（庁舎棟）延べ59,874㎡の工事が10月からスタートした。設計・監理は石本建築事務所・千葉学建築計画事務所JV、第1期の施工は建築が大林組・

鉄建・仙建工業・深松組JV、強電がユアテック・福興電気・塚田電気工事JV、弱電は太平電気・産電工業JV、昇降機設備は三菱電機ビルソリューションズ、給排水衛生はアトマックス・加納工業JVが担当。空調調設備は三建設備工業を契約の相手方として市議会に提案中。28年度中の供用を見込んでいる。



▲新庁舎のパース

### 「防災環境都市・仙台」を応援します。

未来へつなぐ 杜の都のまちづくり

一般 仙台建設業協会  
社団法人 仙台建設業協会

会長 深松 努  
副会長 船山 克也  
副会長 後藤 栄一

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町2番48号  
宮城県建設産業会館2階  
TEL.022(265)7094 FAX.022(222)3439  
URL http://www.senkenkyo.org/

仙台市役所本庁舎整備事業 設計・工事監理

ISHIMOTO 石本建築事務所  
代表取締役社長 長尾 昌高

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-6-12  
tel.03-3262-7161 https://www.ishimoto.co.jp

仙建工業株式会社  
代表取締役社長 中村 知久

本社/〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目2-13  
TEL 022-225-8511

7時4時 勤務推進 夢、かぎりなく。

HMTen  
定禅寺通 創業明治11年146周年  
株式会社 橋本店  
代表取締役社長 武田 文学  
www.hashimotooten.co.jp

ここを、ひとつに。他にない、ひとつを。

株式会社 阿部和工務店  
代表取締役社長 船山 克也

仙台市青葉区上杉一丁目17番18号銅谷ビル  
TEL.022(64)0411 FAX.022(225)5244  
https://www.abekazu.co.jp

この街をあなたとともに 総合建設業

株式会社 深松組  
代表取締役社長 深松 努

本社 〒981-0966 仙台市青葉区荒巻本二丁目18-1  
TEL.022(271)9211代 FAX.022(275)7012

暮らしと生活の創造

後藤工業株式会社  
代表取締役 後藤 栄一

本社/仙台市宮城野区扇町4-6-4  
TEL.022(284)9069代 FAX.022(284)9317

地域ビルダーとして社会に貢献する

赤坂建設株式会社  
代表取締役 佐藤 渉

本社/仙台市泉区上谷刈字赤坂9-2  
TEL.022(372)5111代 FAX.022(372)3501

中田建設工業株式会社  
代表取締役 千葉 公哉

本社/〒981-3216 仙台市泉区小角字大明神5-1  
TEL.022(348)2348 FAX.022(348)2321

未来につながるものづくり

BUILD CORPORATION 株式会社ビルド  
代表取締役 大沼 昭

本社/仙台市太白区長町南一丁目8-18  
TEL.022(308)3788代 FAX.022(308)8565  
https://www.build-s.co.jp

環境を考える解体とリサイクル

株式会社 昭和羽前建設工業  
代表取締役 甘木 広志

本社/〒981-0932 仙台市青葉区木町17番15号UZENビル2F  
TEL.022(274)0553代 FAX.022(274)0771  
仙台新港エコタウン24第一工区/〒983-0001 仙台市宮城野区港3丁目8番9号  
TEL.022(388)5226代 FAX.022(786)1586  
仙台新港エコタウン24第二工区/〒983-0007 仙台市宮城野区仙台港北2丁目10番17号  
TEL.022(353)5922代 FAX.022(353)5924  
支 店/札幌支店・福島支店 グループ会社/㈱三浦商店